

# 阿蘇市議会大蘇ダム視察報告



大蘇ダム事務所での議員視察風景

6月15日、阿蘇市議会は、水漏れがある大蘇ダムや関連施設の現状を知るために、産山村にある農業水利事業所（ダム事務所）やダム水を利用する波野地区の営農団地を視察しました。

## ※国営事業の目的と現状について

国営大野川上流農業水利事業は、大分県竹田市・熊本県阿蘇市波野・

産山村の2市1村にまたがる2158haの農用地において、干ばつ解消と水を利用した新しい畑作農業の展開を図るため、昭和54年から実施されています。

約30年もの歳月をかけて平成20年度完成予定であった大蘇ダムは、1日最大4万トンもの水漏れがあることがわかり、浸透原因を調査するため平成21年度も試験たん水を行いました。計画どおりの給水ができないと

して、国は工期を延長し、平成22年から平成24年までの3ヶ年にわたり、用水供給を行いながら大蘇ダムの浸透抑制対策と利水機能及び水需要の検証を行うこととしています。

事業は長期化し、厳しい農政事情の変化に伴い、所得は伸び悩み、高齢化・後継者不足により基幹産業である農業の将来が危ぶまれている状況にあることから、阿蘇市では、平成21年度の国庫補助事業を活用し、阿蘇市波野地区の2箇所に農業所得の向上、担い手が安心して就農できる基盤づくりを目的としたモデル営農団地を造成しています。茶臼塚工区約6.7haと狹岳工区約

3.3haの営農団地ではトマト、アスパラガス、サトイモ等が作付けされており、ダム水を利用した営農が開始されています。



茶臼塚ファームポンドの議員視察風景（波野）